

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2001.4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 204

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 野鳥研究のための身近な協力

橋口長和（春日部市）

新年の銚子港探鳥会では、初日は大荒れで翌日は穏やかな天気となった。そんな中で、陸では滅多に見られないハイロウミツバメを2羽も見つけた。1羽はすぐに死んでしまった。思案の末、私が山階鳥類研究所に死骸を送ることになった。

また昨年は「鳥類生息分布調査」に協力したり、年末講演会での立教大学上田先生の講演もあり、野鳥に関しての研究や調査について考える機会が多かった。

そこで、本部の研究センター（WING）と（財）山階鳥類研究所を取材して私たちが協力できることについてまとめてみた。

## ● 鳥類生息分布調査

「鳥類生息分布調査」は、20年ぶりに行われており、当支部でも前回調査を経験した人は数人という状態だった。1999年から2000年にかけて、調査は初めての人も協力して二十数カ所の担当エリアの調査を行った（支部報2000年9月号参照）。

調査の方法は、決められたコースでロードサイド調査、コース内2個所で30分の定点観察およびコースの環境調査だった。

### ○ 支部の協力

中間報告書（1993.3）によると埼玉県内の報告が少なく感じた。そこで私は普及部会に提案し、探鳥会での記録等の掘り起こしを各地のリーダーにお願いした。9名のリーダーに協力をいただき、12月に電子データ化した繁殖状況アンケート調査票をWINGに届けることが出来た。

### ○ 私たちにもできる探鳥記録

今回、アンケート調査で役立ったのが、各リーダーのフィールドノートの探鳥記録だ。マイ・フィールドの詳しい地図と対比したデータを送って下さったリーダーもいた。

また、同一個所での数年、十数年の探鳥記録は、埋め立て計画や開発計画の計画変更運動の武器としても大いに役立つことになる。

### ○ では何を記録するか

観察年月日、時刻、天気、場所（できれば地図で特定できる位詳しく）、鳥種、繁殖行動等が必須になる。余裕があれば、数、雌雄、目立った行動、感想、スケッチなども。

繁殖行動は交尾・繁殖・巣作り・巣立ち雛を見た、餌を運んでいたと具体的に記入する。

## ○ 研究センターとは

（財）日本野鳥の会研究センター（WING）は東京都日野市南平の高台にある。2月下旬に取材したが、多摩動物公園の北斜面に面し、日野市、立川市が一望できる素晴らしいロケーションに位置する。

今回の訪問では、インターネットを利用して各支部との調査協力ネットワークが出来ないか、またタカの渡りについてはモバイルでチャットを利用してデータ収集ができないかなどのアイデアもでた。

### 【研究センター成末雅恵さんからのメッセージ】

「20年ぶりに目覚めた環境省委託調査の全国分布調査に、日本野鳥の会全支部のご協力が得られたことは、担当者冥利に尽きます。自然保護を進めるための基盤として、このような調査や情報収集が不可欠です。どうぞ今後とも鳥に関する情報の収集にご協力お願いいたします。

写真向って左から北村昭彦（事務担当）、成末雅恵（運営担当）、矢野正則（分布図作成やソフト開発など）。おもにこの3人で、研究センターの全国分布調査の事務局体制をつくっております。

野鳥誌12月号に、特集記事が載っていますので、ご案内いただければ幸いです。」



## ● 山階鳥類研究所

ハイイロウミツバメを送った後、担当の資料室・平岡氏からお礼状が届いた。取材をお願いしたところ快く引き受けていただいた。前もって送った私たちが協力するにあたっての疑問に回答していただき、特別に標本室も撮影させていただけた。

### ○ 標本の収集と管理

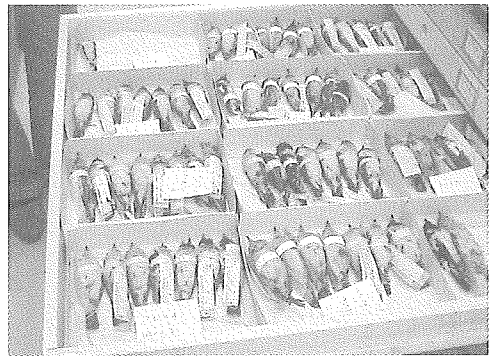
以前は鳥を採集して標本を作っていたが、現在では主に拾得された死体や、動物病院などで死亡した鳥を受け入れて標本を作っている。

まず、受け入れた資料には番号をつけ、発見した年月日・場所・入手経路などを記録する。資料は解剖して性別や年齢などをチェックし、状態によりどのような標本にするかを決め、研究所内で処理できないものは外注する。出来上がった標本は真空薫蒸し、一つ一つにラベルを付ける。ラベルには受入番号・種名・性別・年齢・採集場所・採集日などを記入し、分類順に標本棚に収納する。標本室は湿度・温度を一定に保つため空調を行い、防虫・防カビのために各棚に薬剤を配備している。

### ○ どんな状態のものや種を送ればよいか

状態は、腐敗が進んでいない、損傷の少ないものを集めている。ただし、なかなか入手できないような種については、片翼の標本や骨格標本を残すことも意味があるので、傷んだものや白骨化の進んだものも欲しい場合があるそうだ。例えば、小笠原で拾得された腐敗したオオグンカンドリを骨格標本にした例もある。

種については断言できないので、送る前に電話の確認が必要だ。一般には、猛禽類など

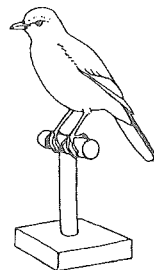


の希少鳥類、日本特産種、島嶼の特産種や特産亜種に力を入れているが、普通種といわれる中でも、なかなか死体の拾得されない鳥もあるので、とにかく連絡の必要がある。

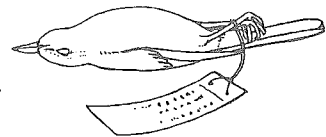
### ○ 研究用の標本とは

鳥の剥製というと、博物館などで見かける、鳥が木に止まったようなものを想像されるが、このような標本は本剥製といい、主に展示に使われる。本剥製は、その鳥がどんな姿をしていたかを知るのには役立つが、保管に場所を取るし、体の各部の大きさを測定したり、いくつもの標本を比較するのには不向き。

このため、研究用には仮剥製が使われる。仮剥製は、内臓や筋肉・骨などを抜き、中に薬品を塗った上、綿などを詰め、鳥がゴロンと横たわった形に作ったものである。作成方法が比較的易しく、保管にも場所を取らない利点がある。山階鳥研が所蔵する剥製の大部分は、この研究用の仮剥製で、これ以外に本剥製や卵・内臓・巣・骨格などの標本がある。



本剥製



仮剥製（研究用剥製）

### ○ 剥製にする以外の部位はどうするのか

組織サンプル：剥製作成の前に、筋肉、肝臓、心臓などから組織サンプルを採取し、DNA 採取用に保存している。

胃内容物：また鳥種によっては、食性分析のために胃内容物を採取して保存している。

骨格標本：剥製にする場合、頭骨、腕(翼)、脚の骨は剥製の体内に残す。残りの胴部の骨格は、種類によって骨格標本とする。また、全く剥製標本は残さずに、全身の骨格標本を取る場合もある。

#### ○ 資料をどのように送ればよいか

送付の方法は、冷凍の宅配便がベストだ。冷凍が融けて血などが漏れることがないようにビニールで密閉し、新聞など水分を吸う素材でくるみ、ある程度丈夫な箱(菓子の箱など)に入れて送れば理想的である。封筒に入れて送ると鳥が圧迫されて潰れるので避けること。

冷凍の宅配便が使えないときは、氷や保冷剤を入れて発泡スチロールの容器などで送っても構わない。この場合は、氷等で輸送中に鳥が潰れないような工夫が必要だ。

採集データ(拾得日、拾得地、拾得の状況、拾得者とその連絡先)は忘れずに必ず付けること。

なお、鳥を冷凍保存される場合は、必ずビニール袋で密閉のこと。剥き出しで冷凍庫に入れておくと乾燥が進み、好ましくない。

以上、皆様の普段の探鳥記録にちょっとした項目を増やすことで貴重なデータに変身すること、身の回りで野鳥の死骸を見つけたときにどのようにすれば資料に変身できるかご理解いただけたと思います。

最後に、鳥類生息分布調査は本年7月まで繁殖データを集めています。支部では私が電子データ化いたします。データの提供をしていただける方は必要な資料をお送りいたしますので橋口まで請求して下さい。

橋口長和(調査資料の請求)

(財)日本野鳥の会研究センター

〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2

TEL: 042-593-6872 FAX: 042-593-6873

(財)山階鳥類研究所 資料室

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

TEL: 0471-82-1101 FAX: 0471-82-1106

## 埼玉県内年間鳥見ランキング

参加のご案内

HP担当 橋口長和

探鳥会の活性化と会員相互の親交、および埼玉県内のフィールドの見直しを目的として、支部ホームページ上で、『埼玉県内年間鳥見ランキング』のページを開設します。

下記に従い、毎年、1月1日から12月31日までの間でランキングを決定します。ランキングは、ホームページに到着毎に順位を掲載します。

### 1. 参加資格

日本野鳥の会埼玉県支部の会員であること。年途中での入会の場合は、入会日からの参加とします。

### 2. ランキング部門

#### ① 埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川数等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当支部が制定している『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当支部野鳥記録委員会が認定した時点で加算。
- ・本人のフィールドノートに観察事項を記録しておくこと。

#### ② 探鳥会参加回数ランキング

- ・埼玉県支部主催の探鳥会に限ります。
- ・リーダー、参加者とも1回1ポイント。

#### ③ 自分で決める埼玉県内鳥見ランキング

- ・ルールは自分が決めます。

### 3. ランキングの申告

- ① 良心のもとに自己申告してください。
- ② 申告書式は支部ホームページで入手し、メールで送付してください。
- ③ インターネットが利用できない人は、下記住所に切手を貼った返信用封筒を同封の上請求して下さい。

## 県内野鳥記録の追加情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

### ●カリガネ

分類 ガンカモ目ガンカモ科マガン属

学名 *Anser erythropus*

英名 Lesser White-fronted Goose

本年2月初めころから戸田市と和光市の境界付近の彩湖でカリガネ1羽を目撃したという情報が何度か聞かれましたが、すぐに飛び去ってしまうのでなかなか撮影されませんでした。2月12日(月)早朝、垂澤光治会員が撮影に成功(右写真)、その後多くの会員らによって撮影されるようになりました。

本種は、昭和初期ころまでは、県南東部の低湿地帯に他のガン類に混じって渡来していたものと思われていますが、1939年2月に越谷市の宮内庁鳴場で捕獲された記録を最後に、県内の記録は全く途絶えていました。

当委員会が作成している県内鳥類目録は、1987年4月以降に、写真など客観的な裏づけとともに観察された種を記録しているものです。それは、例えば江戸時代の文献などに残されていて現在は全く見られない野鳥の記録まで含むことは、近年の野鳥の状況を反映し



ているとはいえないという判断によるもので、1978年3月に発行された『埼玉県動物誌(埼玉県教育委員会)』がそれまでの県内の野鳥の記録のひとつの集大成であることから、それを便宜上の区切りとしているわけです。

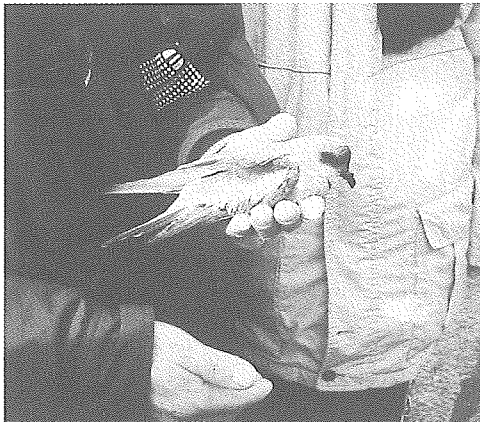
したがって本種は目録には入っていませんでしたが、この写真撮影により、307番目に追加されることになりました。

本種は、他のガン類に混じって毎冬1~2羽程度が、主に宮城県伊豆沼で見られるのみですが、今冬は本誌先月号「連絡帳」欄でも報告した通りガン類の南下が多く、これもその現象の一例であろうと考えられます。

### 楽しかった銚子港探鳥会

加島健太郎(小6・北葛飾郡栗橋町)

泊りがけの探鳥会は初めてだったので、少し緊張していましたが、メンバーの方たちが優しくして下さったので、いつの間にか緊張



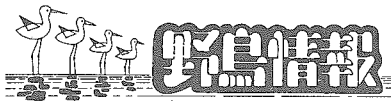
はとれてしまいました。

1日目は、波崎港や銚子港で暴風雨に襲われましたが、そのおかげで風にとばされてきたトウゾクカモメを見ることができました。

2日目は、いいお天気になりましたが、1日目の暴風雨の影響なのか、けがをしているハイロウミツバメがいました。メンバーの方が手にしているハイロウミツバメを間近で見られましたが、弱っていて動けない様子にかわいそうだなと思いました。

なんと言ってもよかったのは、カモメ類。ミツユビカモメ、ワシカモメ、シロカモメなどを観察しました。また、ウミスズメとハギマシコにも出会えて驚きました。ウミスズメは銚子港、ハギマシコは犬吠埼にいました。

たった2日間だったけれど、とても楽しい探鳥会でした。これからもいろいろな探鳥会に参加していきたいと思っています。



**幸手市幸手高校付近** ◇12月5日、倉松川沿いでチョウゲンボウ♂♀をハシボソガラスが見つけた。♂はすぐに飛んでいったが、♀は体育館の屋根の端から離れないので、カラスが何度も頭上スレスレに飛んだ。その度に首をすくめて鳴いていたが、あまりのしつこさに南へ飛び立った。12月24日、カワセミ、クサシギ、イソシギ、タシギ、ダイサギ、ゴイサギ、アオサギ、シラコバト、キセキレイ（徳田潤子）。

**幸手市平須賀** ◇12月18日、宝聖寺付近でシメ、シラコバト、ジョウビタキ、コゲラ、モズ、アオジ（徳田潤子）。

**杉戸町大島新田調節池** ◇12月26日、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、カイツブリ、コガモ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、ホオジロ、ツグミ。◇1月11日、トモエガモ♂1羽、初めて見た。写真の通り面白い顔。びっくり感激した。1月16日、ヨシガモ♂2羽、遠目にも分かるナポレオン帽、カールした尾。飛び立ったら3羽になっていたの、近くに♀がいたのかな。1月18～20日、ミコアイサ♂1羽、コハクチョウ幼鳥3羽、トモエガモ♂1羽、セグロカモメ1羽。1月25日、トモエガモ♂1羽、今までより、もっと近くで泳いでくれたので肉眼でも独特の顔が分かり、胸の白い縦線、黒パンツが双眼鏡でもバッチリだった。今年はバードウォッチングに良い年になりそう（徳田潤子）。

**戸田市道満彩湖** ◇1月17日、北側アシ原で「チーチー」と尻下がりの声とともにツリ

スガラ15羽（鈴木紀雄）。◇2月3日、北側でトモエガモ♂1羽。2月19日、管理橋から幸魂大橋間の湖面でカンムリカイツブリ19羽、オオバン5羽のみ。南側の細長い浮木の上でカワウ55羽。マガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモそれぞれ数羽～十数羽。カリガネ1羽順光で確認。ピンクの嘴と嘴基部の白色が美しく、黄色いアイリングのパッチリした目もかわいい（陶山和良）。

**浦和市秋ヶ瀬** ◇1月17日、大久保農耕地B区でオオタカ1羽、木の枝で休んでいた（鈴木紀雄）。◇1月21日、荒川秋ヶ瀬堰北側でヨシガモ♂7羽♀10羽。同日、秋ヶ瀬志木グラウンド第7ソフト場でタヒバリ13羽（志賀敢）。

**越谷市元荒川** ◇1月20日、文教大学前でミコアイサ約30羽（志賀敢）。

**吹上町下忍** ◇1月23日午前11時頃、ホオアカ4羽、休耕地の中の枯れ草の間を飛び回っていた（金子昭三）。

**岩槻市加倉5丁目** ◇2月15日、自宅庭のハナミズキの枝でモズがきれいな声で歌っていた（藤原真理）。

**菖蒲町小林** ◇2月17日、田の水路脇の梨畑及びケヤキの木でニュウナイスズメ約30羽。スズメ、カワラヒワと混じってとまっていた。2月18日午後1時頃、鴻巣市との境の田んぼでミヤマガラス150羽（氏名記載なし）。

**小川町槻川下里堤** ◇1月18日、コハクチョウ4羽。2月4日朝、カモ撃ちの音に驚いて飛散、悲惨（喜多彌生）。

**越生町大高取山** ◇2月17日、中腹でルリビタキ♀1羽（松井昭吾）。

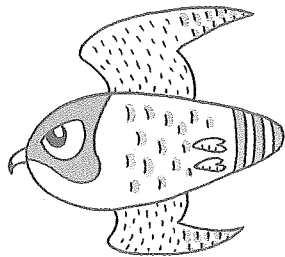
**越生町桂木観音** ◇2月17日、ルリビタキ♀暖かい日だまりで日向ぼっこ（松井昭吾）

表紙の写真

スズメ目ヒバリ科ヒバリ属ヒバリ

撮影：外園たけの（春日部市） 草原、畑などで空高くさえずるポピュラーな鳥。俗名・シバリ、スバリ、ヒワリ、ヘバリ、イチコク、イチロク、イチベエ、ノヒバリ、ヒバル、モドクリ、ムギウラシ、リユーヒバル、チチポロ、ヒリリ、カヤドリ、ジツチ、ヒバイ、ゲエチャーなど。餌・ミゾソバ、イヌタデ、アキノウナギツカミ、ハナタデ、ノビエ、キンエノコロ、スズメノヒエなどの種子や昆虫類も。（清棲幸保著「野鳥の事典」から）

# 行事あんない



(何森 要)

## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より、北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、高(文)、立岩、永野(安)、永野(京)、高(尅)、山田、今井、山野

見どころ：スプリング・エフェメラル(春のはかない生命)といわれるカタクリやシダレザクラ、エドヒガンザクラ、カバザクラなどの花巡りをします。帰り支度を始めた冬鳥、そして留鳥にも変化の兆しが。



メジロ(外園たけの)

## 浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<見沼ヘルシーロードコース>

期日：4月1日(日)

集合：午前9時、浦和市くらしの博物館民家

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

園駐車場。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大門経由さいたま東営業所行き(浦02系統)8:30発にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)

見どころ：毎年恒例の「花の探鳥会」です。どこもかしこも花、花。桜は少し早いかも知れませんが、日本に到着したばかりのツバメがお出迎えます。

## 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

干潟を守る日2001 in 渡良瀬遊水地

期日：4月1日(日)

集合：午前9時15分、東武日光線柳生駅前。

または午前9時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷8:20→春日部8:36→栗橋8:58→柳生9:08着。またはJR宇都宮線大宮8:19→栗橋8:53着にて、東武日光線乗り換え。

担当：橋口、玉井、内田、入山、高(文)、高(尅)、田邊、中里

見どころ：今年はカモの旅立ちが早いようですが谷中湖には何種残っているのでしょうか。谷中村跡の木立にはきっと夏のトリが来ていることと思います。春ですが風が吹けば寒いので防寒対策を。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居9：03発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：大麻生で春といえば、ニューナイスズメ、土手の桜、そして運行再開のSLでした。しかしここ数年は、お目あてのニューナイスズメに会うことはできませんでした。周辺の工事のせいでしょうか。今年こそ会いたいですね。

#### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

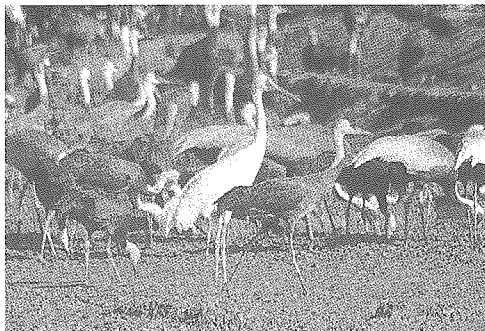
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、笠原、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅

見どころ：春です。鳥たちが歌い、虫たちが飛び、花々が咲く。今月は最も早い第三日曜日なので、残りの桜が見られるかも知れません。見沼たんぼの春が皆さんを待っています。鳥見と自然保護の学校にお出かけください。

#### 浦和市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月15日（日）

集合：午前8時20分、JR浦和駅西口バスロータリー。集合後5番バス乗り場より荒川総合公園行き8：39発にて「諏訪



ソデグロヅル（左）ナベヅル（右）（松村禎夫）



ベニマシコ（小川力雄）

前橋」下車。

担当：倉林、海老原、小林、百瀬、森（秀）、渡辺（嘉）

見どころ：諏訪前橋から鴨川機場をみて、秋ヶ瀬公園の子供の森、野鳥園まで歩きます。そろそろ渡りの季節、草木も萌えいで春一色になるころです。さわやかな一日を楽しみませんか。

#### 「しらこぼと」袋つめの会

とき：4月21日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：最も早く「しらこぼと」が読めて、時々最新の野鳥情報も聞けて、力作ビデオの鑑賞も、発表もできるんです。

#### 東松山市・物見山探鳥会

期日：4月22日（日）

集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越えた右側）。

交通：東武東上線高坂駅西口より、東武バス鳩山ニュータウン行き8：58、9：08発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5分（バス進行方向へ進みます）。

担当：藤掛、岡安、志村、立岩、後藤、吉田、林（久）、増尾、池永

見どころ：ツグミたちはゴールデンウィークに照準を合わせて帰る準備。オオルリ、キビタキの飛来はちょっと早いかなと地元の会員情報。身近な里山の新緑とツツジを見ながら、小鳥たちを探しましょう。

#### 春日部市・内牧公園探鳥会



期日：4月29日（日・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス1番バス停前、または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村（榮）、橋口、新井（良）、入山、松永、宮下、吉岡（明）

見どころ：新緑が美しい内牧公園にも夏鳥到来のシーズン。雑木林や茂みでシメ、アオジ、シジュウカラなどを観察し、そろそろ水の入り始めたたんぼではムナグロやアマサギに期待しましょう。

#### シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日（日・祝）

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬（大宮市・浦和市）

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼ごろの予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

#### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

干潟を守る日2001 in 谷津干潟

期日：4月30日（月・祝）

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8：34→南浦和8：37→南船橋9：26着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤、齋藤

見どころ：今年は春に2回行います。その1です。夏羽のシギ・チドリを見に来てください。全国で行われる「干潟を守る日」の公式行事の一つです。干潟の生き物に興味のある方も歓迎します。

#### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

干潟を守る日2001 in 黒浜沼

期日：4月30日（月・祝）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東

口バス停前。

担当：玉井、中島（康）、中村（榮）、吉田、田中、松永

見どころ：新緑の季節、心地よい風を感じながら田植えの準備が始まったたんぼで、ムナグロやシギ類を探します。もちろんオオヨシキリ、セッカ、アマサギなどの夏鳥たちも楽しみです。

#### 長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：5月12日（土）～13日（日）

集合：12日午前9時15分、JR長野駅善光寺口駅前広場。

交通：長野新幹線「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：56→長野8：50）。または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57）。

費用：10,000円の予定（1泊3食付き宿泊費、現地バス代、保険料他）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、支部会員優先、初参加者優遇）

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、参加回数を明記して、小池一男

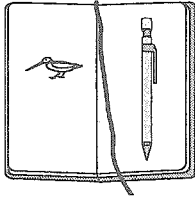
まで。

担当：小池（一）、小池（順）、岡安

見どころ：春の「白馬まるごとウォッチング」は夏鳥はもちろん、サクラ、スミレなどの植物やギフチョウ、サンショウウオなどの動物も観察予定。アフターの温泉も楽しみです。

注意：初日の昼食は各自持参、ハイキング用靴、雨具は必携です。宿泊は男女別の相部屋です。個室はご用意できません。

4月1日渡良瀬遊水地・4月30日と5月1日谷津干潟・4月30日黒浜沼の各探鳥会は、干潟を守る日2001参加行事です。干潟と湿地の大切さを実感し、その環境を守ることの重要性を考えます。



# 行事報告

12月24日(日) 年末講演会

参加: 80人

埼玉県在住で、当支部会員でもある立教大学理学部助教授・上田恵介先生をお招きして、「秋ヶ瀬で繁殖する鳥たちの生態—水田生態系の重要性—」と題して講演いただく。先生が長年調査研究してこられた秋ヶ瀬は、私たちにとっても馴染みの深いフィールドであり、そこに繁殖する鳥たちの生態についても身近な話題として聞くことができた。参加者からの質問も相次ぎ、充実した講演会となる。終了後の懇親会にも20人の参加があり、年忘れのひとときをともに楽しんだ。(榎本秀和)



1月7日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 41人 天気: 晴

カワウ コサギ チョウゲンボウ コジュケイ タゲリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 開始の挨拶の途中でタゲリ2羽が出現し、みんな歓声を上げる。更に遠方の鉄塔に止まっているチョウゲンボウを見つける。公園の池の周辺では、ツグミ、シジュウカラ、コゲラ、シメ、モズ、メジロと立て続けに出現し、リーダーもうれしい悲鳴を上げる。せせらぎに沿って歩くと、ア

オジメ♀が並んでスコープに入り「ラッキー」と女性が喜んでいて。雑木林のはずれで、シロハラの声を確認し、刈田に出たところでジョウビタキをじっくり見ることができ、感激して見入る。刈田では、常連のタヒバリ、ヒバリも出てくれ、満足できた探鳥会であったと思う。(吉安一彦)

1月7日(日) 千葉県 船橋海浜公園

参加: 24人 天気: 晴後曇

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ トビ ミヤコドリ シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ メジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 人が少なく穏やかな浜でシギ類やミヤコドリをゆっくり見た。沖にはスズガモの黒い帯。その近くでは、ホオジロガモやウミアイサが潜水採餌。三番瀬の自然を堪能。(杉本秀樹)

1月8日(月、休) 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池

雪のため中止。

1月10日(水) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 35人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ ハイタカ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 雪の後で心配したが、集合地点で早くも上空をコハクチョウが2羽通過。ヒマラヤトキワサンザシ(通称ピラカンサ)の実をツ

グミの大群がついばんでいた。お目当てのオシドリは山田大沼で確認できなかったが、トモエガモ、ミコアイサ等、ガンカモ類11種と、カラ類の混群をじっくり見ることができた。(藤樹保司)

1月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 18人 天気: 晴

カワウ オオタカ ノスリ タカsp キジバト  
カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ  
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 強い風を避けてゴルフ場南側の雑木林を通るコースを取った。ホオジロ、カシラダカ、アオジが主だったが、ノスリ、オオタカ等の猛禽類も舞い上がり、楽しませてくれた。又、カモ類、サギ類が全く見られないという当地では珍しい探鳥会だった。(和田康男)

1月14日(日) 戸田市 彩湖

参加: 60人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (40種) 強い風と寒さの中、釣り堀の端でカワセミを全員でゆっくりと見る。それを見終わって彩湖を見ながら北へ。カモ4羽が湖に下りる。ヨシガモだ。機場のわきではミコアイサのみ3羽。寒い中ガンバツタ探鳥会だった。(倉林宗太郎)

1月20日(土) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 27人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ ノスリ バン キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シ

ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 市野川ぞいを歩く。一見ひっそりとした冬枯れの土手だが、よく見れば小鳥たちは今日も元気に息づいている。ホオジロの群れの中に見慣れない顔が……、と見ていると、振り返って見せた背中はやっぱりホオジロ。繁殖羽と非繁殖羽の個体が並んでくれて識別の勉強になった。大沼は水が抜かれて、カモが生息できる状況ではなかった。今後どのような整備がなされるのか見守りたい。(榎本秀和)

1月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11人

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、倉林宗太郎、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、藤野富代、増尾隆、百瀬修、渡辺嘉男

1月21日(日) 長瀨町 長瀨

参加: 17人 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ トビ ワシタカsp イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 積雪はあったものの天気は晴。東京や横浜など遠方からの参加者もあり、少人数の探鳥会となった。途中の水管橋から見る荒川の眺めはいつにも増して素晴らしいものだった。カワセミ、タヒバリ、セキレイ類など水辺の鳥をじっくり観察。(小池一男)

1月21日(日) 大宮市 花の丘公園

参加: 12人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ヒガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) 前日の大雪のためか、参加者も出現鳥も少なかったが、植物やホテルに詳しい人がいて、説明を聞いたり、ろう梅の種を拾ったり、アットホームな探鳥会になった。(高文子)

## 連絡帳

### ●定例評議員会開催

3月3日(土) 都内渋谷区で財団法人日本野鳥の会第26回評議員会が開催され、埼玉県支部からは、関東ブロック選出評議員としての海老原美夫副支部長と、傍聴人としての橋口長和幹事、2名が出席しました。

議事に入る前の会務報告では、今なお続いている本部の混乱状態につき、黒田長久会長から、「責任を認め、世代交代をはかりたい」との発言がありました。

混乱解決の道筋をつけ、会の運営に関する基本的な検討を行う「鳥と未来のための特別審議会」を設置することが、すでに1月12日の臨時理事会で決められています。この審議会が3カ月間の集中審議を行い、その答申により、正常化が進められる計画です。

議事に入り、第1号議案「平成13年度事業計画案と収支予算案に関する同意の件」と、関連報告「平成12年度事業の進捗状況と決算見込み」は、質疑応答の後、承認されました。

第2号議案「評議員制度に関する事項について」では、評議員会制度について見直す必要が生じたことから、「評議員制度検討委員会」を設置することが議決されました。

この評議員会で提案される予定だった理事の欠員補充については、特別審議会の答申を待って実施すべきとの考えから、提案されませんでした。

全国の支部代表者や評議員にも、様々な立場や考え方がありますが、それを乗り越え、会が一日も早く常態にもどることが、強く望まれます。(この項の文責・海老原美夫)

### ●会員の普及活動

1月24日(水)、大宮市内の氷川神社と第2公園周辺で、大宮市北公民館主催の探鳥会が

開催され、松井昭吾顧問と中島康夫支部長が指導しました。

2月11日(日)、大宮市アーバンみらい第二自治会主催の深作川周辺探鳥会が開催され、中村榮男・吉安一彦幹事、田中幸男・長嶋宏之リーダーが指導しました。

2月18日(日)、騎西町の埼玉県環境科学国際センター主催の野鳥観察会が、センター内生態園で開催され、中里裕一幹事が指導しました。

### ●4月の事務局 土曜と日曜の予定

- 1日(日) シラコバト見つけ隊。
- 7日(土) 編集部・研究部会議。
- 14日(土) 5月号校正。
- 15日(日) 役員会議。
- 21日(土) 袋づめの会。

### ●会員数は

3月1日現在 2,859 人です。

## 活動報告

2月10日(土) 3月号校正(海老原美夫、喜多峻次、桜庭勇)。

2月18日(日) 役員会議(司会:楠見邦博、行事予定・評議員会・その他)。

2月19日(月) 3月号発送(倉林宗太郎)。

2月22日(木) 県庁自然保護課の補助金対象団体調査に対応(事務局)。

## 編集後記

4ページの鳥見ランキングは、自己申告だけで、一切検証なし。1位になっても、賞品も何ものなし。「自分で決めるランキング」にいたっては、要するに「勝手にランキング」。様々なアイデアで、自分の都合の良いルールを勝手に作り、「私1番!」と宣言できるもの。かなりいい加減? な遊びです。気楽にどうぞ。(海)

しらこぼと 2001年4月号(第204号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社